ガスの灯は盛岡人の手によって

日本で初めてガスに火を灯したのは、
南部藩士であるといわれています。
ガス燈の灯に歴史を
垣間見てはいかがですか。

ガス燈の由来について、中の橋際の説明板には、次のような内容が記されています。

『明治５年（１８７２）、横浜の外人居留地にガス燈を灯したのが、日本における都市ガス事業の始まり。

しかし、これより17年前の安政２年（１８５５）、南部藩医師・島立甫が、江戸亀井戸の自宅において、コールタール製造の副産物として発生する石炭ガスに点火し、照明として利用した、という記録が残っている。また同じ頃、水戸藩に招かれ、那珂湊に反射炉を築造した南部藩士・大島高任が、コークス製造の副産物利用としてガス燈を灯したという。

ガス燈事業に始まった近代都市ガス産業の先駆者が南部藩士であることは、盛岡市民にとって興味深い。』

現在、市内数箇所でガス燈を見ることができますが、盛岡の街にガス燈が似合うのも、そんな歴史があるからかもしれません。